

季節の
絵本

月のお話



『お月さまってどんなあじ?』
マイケル・グレイニエツ 絵と文
いずみほこ 訳
らんか社

お月様をかじってみたい動物たちが協力して、自分の背に他の動物のせて階段を作っていきます。ようやく届いたお月様の味とは…?絵が美しい、月の絵本の定番です。

『ねえ、おつきさま どうしてぼくについてくるの?』

さく・きむらゆういち
え・やましたこうへい
教育画劇

子どもの素朴な疑問に、分かりやすく答えてくれる絵本。バスから月を見るのと同じ仕組みのしかけや、月の満ち欠けの解説などもあります。



『おひさまとおつきさまのしたで』

マーガレット・ワイス・ブラウン 作
黒井健 絵
教育画劇
※絶版、図書館でお探してください。

日中たっぷり遊んだ子どもたちは、お月様の下でぐっすり…。優しいタッチの絵と、この作者らしい繰り返しの文章に癒されます。胎教にもおすすめ。



答えてくれたのは

絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
司書の安藤さん

質問募集中

このコーナーでは、知りたいテーマの絵本や、選び方・読み方についての質問を募集しています。PIIのプレゼント応募と併せて、もしくは編集部メールアドレス (henshu@l-ma.jp) へお送りください。※メールの件名は「親子の絵本時間への質問」と明記。

ぴったりが
見つかる

親子の絵本時間

今月の
質問

娘は、男の子のおしっこの仕方が不思議なようです。男女の体の違いがわかる絵本はありますか？

(3才と0才の女の子のママ)

答え
おまし

研究者の山本直英さんが、子ども向けの性教育の絵本をたくさん出しています。

『おちんちんのえほん』(※1)は、男の子の話がメインですが女の子にもいいでしょう。男女の体の違いや排泄の仕方、自分の身を守る方法、赤ちゃんがどうして生まれるのか…などを幅広く



(※1)
やまもと なおひで・ふん
さとう まきこ
ポプラ社

く網羅しており、性教育の入門書にぴったり。優しいイラストで自然に読めますし、ラストは「生まれてきてくれてありがとう」というメッセージも届けてくれます。



(※2)
山本直英・和歌山静子 さく
童心社



(※3)
ピーター・メール 著
アーサー・ロビンソン イラスト
谷川俊太郎 訳
河出書房新社

『ぼくどこからきたの?』(※3)もおすすすめ。男女が愛し合うことについてかなり踏み込んでいますが決していやらしくはなく、ユーモアを交えて描かれています。性器の名称や胎児の成長も詳しく分かります。

『わたしのはなし』(※2)。自分の体と心は自分だけのもの、特にプライベートな部分は大切にしなければいけないことを、分かりやすくシンプルに教えてくれます。

もう少し大きくなれば、